

「CSの日」を中心とした学校と地域による協働活動



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
鹿屋市立 細山田小学校	細山田小・中学校学校運営協議会 平成31年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 1名 0名 地域学校協働活動地域担当者 1名 1名	細山田校区 地域学校協働本部
鹿屋市立 細山田中学校	細山田小・中学校学校運営協議会 平成31年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 1名 0名 地域学校協働活動地域担当者 1名 1名	細山田校区 地域学校協働本部

取組の背景及び目標や目指す姿

背景
現代社会では、情報化、国際化、多様化、孤立化、過疎化など多くの課題が存在している。そのような課題を解決するためには、人々が学びによる知恵を寄せ合い、つながりを意図的に設ける必要がある。また、その学びのフィールドを地域に求めることで、地域の活性化や郷土愛の醸成にもつながることができる。そこで、学校ではコミュニティ・スクール(学校運営協議会)制度による地域との協働によって、「CSの日」を中心に活動することによって、これらの課題に対し解決に結びつきたい。

目標や目指す姿(学校)
大きな理想をもち、知徳をみがき、郷土細山田をおこす児童生徒の育成

目標や目指す姿(地域)
笑顔あふれる元気な”細山田”

細山田小・中学校学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

<input type="checkbox"/> 校区コミュニティ協議会関係者	<input type="checkbox"/> 小・中PTA関係者
<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 校区体育協会関係者	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 校区生涯学習推進協議会関係者	など、計 10 名で構成
<input type="checkbox"/> 地域サポート隊関係者	年間平均 4 回程度開催

効果的な運営の工夫
小・中合同による学校運営協議会を開催するため、協議内容も多く、これまでは時間内に終わることが困難であった。そのことから協議資料・協議内容の厳選及び資料の事前配布を行うこととした。表題の協議を行う際には別途日時を設定して学校運営協議会を開催した。
また、今後のコミュニティ・スクールについて関係団体へ理解してもらうための説明会を実施したが、効果的に行うために学校運営協議会委員のサポートをもらいながら説明することで、関係団体の理解を早めることができた。

特徴的な取組と成果・効果

取組	学校運営協議会	地域学校協働活動
	<p>細山田型小中一貫教育(コミュニティ・スクール)活性化プランについて協議し、作成。また、学校の役割、地域の役割について再確認し、学校運営協議会委員や関係団体とのつながり、コミュニティ・スクールの理念を広めるために「CSの日」を設定し、取組を進めることを決定した。</p>  <p>学校運営協議会の様子</p>	<p>学校支援(学校応援団)を進めるために、教育課程に地域人材活用の年間計画を設定。中でも、「CSの日」については、土曜日の授業を活用した支援と、教育課程外における放課後子供教室や子ども食堂等の活動とも結びつけられるように計画した。</p>  <p>読み聞かせ活動(小1)</p>

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等
学校運営協議会において話し合われた「CSの日」を毎月第2土曜日に設定し、保護者・地域住民が学校に関わることでできるイベントを学校内で実施。令和3年度はプレイベントを行い、令和4年度からは多様なつながりを演出し、学校と地域双方がニーズとして挙げていることを年間計画として策定した上で、実践を積み重ねている。特に、今年7月の「CSの日」は、授業を活用した「読み聞かせ」を実施、昼食時には、子ども食堂を開催、その後、ニュースポーツ体験を行うなど、より多くの幅の広い地域住民が関わる取組を行った。

成果・効果

「地域学校協働活動」実績(R4.7.20現在)

	学習支援	環境	安全	行事	読書	その他	計
実施回数	7	2	7	5	2	3	26
参加人数	20	80	20	20	6	15	161

「CSの日」実績

月/人数	5月/60人	6月/25人	7月/30人
主な内容	下校時引渡訓練	花の仮植	読み聞かせ

保護者の感想
今年度から始まった「CSの日」に自由参観ができることと、何度か見に行かせてもらっています。年に数回ある授業参観の時に見る子どもたちの姿とはまた少し違った普段の学校生活が見られ、とても嬉しいです。土曜日開催なので、平日は仕事で参観できない父親も、学校の様子を見ることができたので、家庭に戻り、親子で話すよい機会になりました。次の機会を楽しみにしています。
今後に向けて
今後とも情報発信と広報活動を継続し、児童生徒の成長を支える雰囲気醸成していくことが大切である。